

Hokuen

北  縁



清水寺の仁王門とつつじ

ぎよき えいたい し どうほうよう 御忌・永代祠堂法要のご案内

6月15日(日) スケジュール

- 午前10時～ 合葬墓前にて法要（納骨されている全精霊位様をご回向します）
- 午前11時～ 法話
……………昼食休憩（お参りの皆様に昼食を用意しています）……………
- 午後1時～ 本堂にて御忌・永代祠堂法要

「御忌」とは念仏の元祖・法然上人の忌日法要のことです。大永4年（1524）に後柏原天皇が下された「大永の御忌鳳詔」で、“毎年正月、京畿の門葉を集め一七昼夜にわたって御忌をつとめ、はるかに教えの源をたずねよ”によります。

法然上人のご生涯は、み仏の限りない慈悲の光の中に生かされ、限りない生命の喜びをかみしめるために只“南無阿弥陀仏”をとなえよと私達にお勧め下さったことにつき、そのみ教えは今も私達の中に輝いています。

明治以降はお亡くなりになられた1月ではなく多くの人々にご参詣いただけるように時候の良い4月以降に全国各地で法要が勤められるようになりました。

当山では、6月15日、以下の寺院様ご参列のもと、御忌法要を執り行います。

- 法性寺（石狩市）
- 阿弥陀寺（岩見沢市）
- 天徳寺（江別市）
- 菩提寺（札幌市北区）
- 龍雲寺（札幌市北区）
- 大松寺（札幌市南区）
- 玄松寺（札幌市中央区）
- 長専寺（札幌市豊平区）
- 善道寺（札幌市豊平区）
- 瑞龍寺（石狩市厚田区）
- 開運寺（札幌市北区）
- 観音寺（札幌市中央区）

また、御忌法要と合わせて、永代祠堂の精霊1347霊位（個々の霊位に関しましては別紙にてご案内しております）をご回向させていただいております。

是非、ご家族お揃いでお参りいただき念仏をとなえて法然上人のみ教えの遙かに源をたずね、ご先祖様に思いを馳せていただきたく存じます。尚、新善光寺では随時、永代祠堂を受け付けております。



知恩院



新善光寺

法話

お経・お仏壇のはなし

今回は知っているようで知らないお経・お仏壇をテーマに実演も交せてお話しいただきます。

- ・お経にはどんな意味があるのか。
- ・お仏壇のまつり方は？
- ・どのようにとなえるのか。
- ・お盆のしつらえは？

現住職のいところで前年まで高校の国語教師であった太田寛隆師がわかりやすく、お経のとなえ方の意味やお仏壇のまつり方についてテキストを使いお経は一緒にとなえながら関西弁を交えてわかりやすく軽妙に解説します。



かんりゅう
太田寛隆 師 大通寺住職 (大阪府天王寺区)

昭和 24 年 9 月 13 日 生まれ

昭和 47 年 浄土宗教師資格取得

昭和 49 年 北海道大学文学部国語国文科卒

平成 18 年 大通寺第 28 世住職叙任

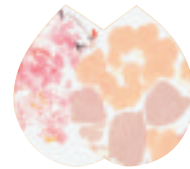
平成 25 年迄 大阪明星学園国語科教諭



※訃報

太田寛隆師の父で、新善光寺前任職太田隆賢の弟にあたる大通寺 27 世住職太田隆之上人が 4 月 13 日に遷化しました。

お参りの方には今回作成した新善光寺オリジナルの散華をお渡しします。



サンプル

※法要開始前、下記開催予定雅楽とクラシックが融合した“チャリティコンサート”出演の演奏家によるミニコンサートをおこないます。

第 2 回 3・11 メモリアルコンサート「絆」

“音楽の力で 私たちができること 被災地のために あなたができること”

日 時 7 月 13 日(日)

会 場 新善光寺 本堂

開 場 15 時

開 演 16 時

入場料 1000 円 (前売・当日共通)・・・収益は被災地へ寄付いたします



極楽の鳥 ～共に生きるとは～

先頃、平成の修理を終えた京都府宇治市にある平等院鳳凰堂が、賑わいをみせているようです。このお堂は十円玉にも描かれ、また屋根の鳳凰は一万円札にも登場する案外私たちになじみのある存在です。鳳凰堂の内部には、阿弥陀さまがおられ、前の池などのお庭も含めて極楽の様子をあらわしています。極楽には、鳳凰のような鳥たちが阿弥陀さまの真実の教えを説くためにさえずっているのです。その極楽の鳥のなかに、共命くみまうの鳥という珍鳥がいます。今回は、共命の鳥が歩んだ過去の道のりを通して、今この世に生きる私たちのありのままの姿を深く見つめてゆきたいと思います。

共命の鳥は、胴体がひとつで、頭がふたつという姿をしています。その頭は、それぞれに心を持っていました。お互いに「我こそが世界で最も美しい声を出すのだ」と誇示していました。次第にふたつの頭は、いがみ合い憎悪や嫉妬の念で充満していきました。そんな時、一方の頭が、「片方の頭が亡きものになれば、世界一になれる」と考え、もう一方の頭に毒入りの食べ物を食べさせました。すると、一方の頭の迷惑通り、もう一方の頭は亡くなりました。しかし、胴体と同じ共命の鳥は、「亡きものになろう」とたくらんだ頭をも滅んでゆく存在だったのです。この愚かな出来事を経て、極楽での共命の鳥は、「他を滅ぼす道は、自らを滅ぼす道。他を生かす道は、自らを生かす道。」とさえずり、まことの道を説き示しているのです。



孔雀や鸚鵡などの極楽の鳥たち

この共命の鳥の過去の出来事を、私たちは他人事として笑えるでしょうか。あるジャングルの生態系を紹介するテレビ番組を見ていたとき、「共に生きるということは、共に傷つけ合うということなのです」というナレーターの言葉がひどく印象に残りました。なぜこの言葉が印象に残ったかといえば、それは我が身の姿を言い当てたものだったからではないかと思います。

浄土宗でいうところの共生ともいきとは、理想論ではなく、この世に生きる私たちのありのままの姿は、共命の鳥が過去にした行為のように他を傷つけずにはおれない存在であるということをよくよく肝に銘じ、そのいがみ合う者どちらも阿弥陀さまは包み込み、決して



くみまう
共命の鳥

見捨てないということです。怨みや妬みを消し去れといわれても、容易に消しきれない私たちが、阿弥陀さまの慈しみのなかに生きているというのが、浄土宗の共生です。法然上人(1133～1212)が、還愚痴げんぐちひじりの聖と称されるのは、「自らを愚かであると思う者は、すでにそれによって賢き者なり」というお釈迦さまの教えを体現する方だったからだと拝察いたします。

《文・立花 俊輔》

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話⑦

ほとけ ねん もの じんちゅう ふんだりけ
〈仏を念ずる者は、人中の分陀利華なり〉

こまき ね きんしょう
駒木根 琴生



今回のタイトルは「観無量寿経」の中の一節です。意味は「念仏信仰者がお念仏申すたびにつぼみがふくらみ、やがて蓮の花が咲き出す。その香りにより人々の心を清める。この念仏者こそ、人々の中で勝友と成れり」です。

極楽浄土への来迎花である白い蓮の花はインドの梵語で分陀利華と言う。蓮のつぼみこそ私達の仏の種・仏性である。「一切衆生悉有仏性」字の通り、人間は皆悉く仏様にさせて頂ける種を持っていると、お釈迦様は約束下さっている。又、仏典に「美しい白蓮華は泥水に染まらない」の通り、きれいな清んだ水の中ではなく、泥の水で咲くが決して染まらない。水の上にピーンと伸びて咲き出す姿に、私達の西方浄土への往生心を重ねる。娑婆という泥水にあっても苦しみや悲しみに染まらないで往生させて頂く為には、阿弥陀本願にお任せして、只、ただお念仏申す以外にはない。

ようやく北の大地にも花の季節になりました。花にはそれぞれの持ち味がある。夏は太陽に向かって咲く向日葵に逞しさを感じ、秋の花・桔梗には寂しさを感じる。盛りと咲き出した春の花・梅と桜が共に携えて歓喜を運んでくる。場所取りに努力を惜しまない程、桜満開の下に人々は集う。ワイワイと笑う花見に昨日までの辛さを忘れ、明日への力を頂く瞬く間を感じているに違いない。桜は開花して散る迄に「花七日」と言われる程とても短い。時には激しい風雨に合い、一夜で散ってしまう。この儂い短さに無常観を思うのか、私達日本人は桜に格別な愛情を抱いている。桜の命と人間の命との響き合う音色が5月の風に乗って巡ってくる。

昭和54年5月、長男は自らお浄土へと旅立って逝った。3歳年下の弟の「僕の兄ちゃんいかないでいかないで」との叫び声の中、進む葬列に桜の花びらが散った。あまりの突然の悲しみに花びらを拾わずに舞って逝った。

「葉桜や 実らぬままに 散り急ぐ」は長男と仲良しだった祖父の心の一句である。平成7年に亡くなった祖父と息子は法然上人の同一蓮共に法の座で再会していると信じている。共通の旅の話に花が咲いて語らう2人を思う。

「娑婆のこの世に一人の念仏者が現れると、浄土に必ず一茎の蓮華生まれる」如く、どうぞ皆さんもしっかりお念仏申して、お浄土を蓮の花いっぱい咲かしてほしいと願います。3月には春彼岸のお説教で熊本県天草で、4月には増上寺のある東京で一足早く桜を楽しめた春でした。

“ひとたびも 南無阿弥陀仏という人の 蓮の上に登らぬはなし”

シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし④

前回に引き続き、序分の「^{さんぼうらい}三宝礼」以降をひも解いていきたいと思います。

・三宝礼

「^{さんぼうらい}三宝礼」は文字通り、三つの宝、「^{らいはい}仏・^{ほっだ}法・^{げもん}僧」への礼拝を行う為に唱える偈文です。「^{らいはい}仏」は「この世の真理を覚ったもの=^{ふっだ}仏陀」を意味します。「^{ほっだ}法」は「^{そうぎや}仏の説いた教え」、「^{げもん}僧」は「^{そうぎや}僧伽=仏の教えを守り修行する人々の集まり」をそれぞれ意味します。よく「僧は僧侶のことですか?」というご質問もありますが、ここでの「^{げもん}僧」は僧侶も含め、「^{らいはい}仏教を篤く敬っている全ての人々」という意です。

それでは、例によって漢文書き下しをしてみると「一心に敬って十方方法界常住の^{らいはい}仏(法・僧)を礼したてまつる(意識:あらゆる世界の^{らいはい}仏とその教え、^{らいはい}仏法を信仰する人々を一心に敬って礼拝いたします)」となります。

「十方方法界」とは^{らいはい}仏教の世界観のひとつで、方角、「^{とうしやうなんぺい}東西南北」と「^{とうほくとうなん}東北、東南、西南、西北」、さらに「^{じやうじやう}上下」の十方向に存在する一切のものを意味します。その十方方法界に常に座す、^{らいはい}仏(法・僧)を敬い、礼拝するという偈文になっています。

お勤めの中で、この偈文を唱えながら礼拝(礼拝については、いずれお話したいと思います)を行います。ご自宅でお勤めする際には、唱えながらご本尊に^{ていず}低頭するような形で結構だと思います。(写真参照)

図1は前回同様、鈴の打つ位置を示しています。三宝礼は、香偈とは異なる法則性で鈴を打ちます。唱える前に打ち、「一心敬礼」の後に打つ様になっています。「十方方法界常住^{らいはい}仏」の部分で低頭をします。この動作を後の「法・僧」それぞれ合わせて3度行う様になっています。

いっしんきやうらい	じっぼうほうかいじやうじゆうぶ
● 一心敬礼 ●	十方方法界常住 ^{らいはい} 仏
いっしんきやうらい	じっぼうほうかいじやうじゆうほう
● 一心敬礼 ●	十方方法界常住 ^{らいはい} 法
いっしんきやうらい	じっぼうほうかいじやうじゆうそう
● 一心敬礼 ●	十方方法界常住 ^{らいはい} 僧

図1 三宝礼

●: 鈴の打つ位置です



低頭



礼拝

・奉請

「^{ぶじやう}奉請」は2つの偈文があります。厳密に言うと、僧侶が各法要で唱える^{ぶじやうげもん}奉請偈文の種類がいくつかありますが、一般的に唱える2つについてお話していきたいと思います。

「^{ぶじやう}奉請」の意味は「今、この道場(お勤めを行っている場所)へ^{らいはい}仏、菩薩を奉請(招き入れること)する」ということです。

・四奉請・三奉請

図2に「四奉請」の偈文を記しています。書き下し文は「請じ奉る十方如来（釈迦如来・弥陀如来・観音勢至菩薩）、道場に入りたまえ（散華楽）」となります。十方如来は三宝礼のお話で出てきた「あらゆる世界の如来（仏陀）様」という意です。十方如来を奉請したのちに「釈迦如来」「阿弥陀如来」「観音勢至菩薩」をそれぞれ奉請します。「散華楽」は仏菩薩をお迎えする時、天より華が舞い散るといふ経説があり、蓮の華を形取ったものを散じる作法（写真参照）を行う為に唱える箇所です。ご自宅でお勤めする時はそのような作法はしないので、唱えるだけで結構です。

<p>● 奉請十方如来 ● 入道場散華楽</p> <p>奉請釈迦如来 入道場散華楽</p> <p>奉請弥陀如来 入道場散華楽</p> <p>奉請観音勢至諸大菩薩 ● 入道場 ● 散華 ● 楽</p>	<p>● 入道場 ● 散華 ● 楽</p>
---	-----------------------



図2 四奉請

●：鈴の打つ位置です

図3は「三奉請」になります。書き下し文は四奉請とほぼ同じになります。「請じ奉る弥陀世尊（釈迦如来・十方如来）、道場に入りたまえ」表現は異なりますが「阿弥陀如来・釈迦如来・十方如来」を奉請する偈文になっています。また、本来は四奉請と同様に「散華楽」がそれぞれ入るのですが、三奉請は四奉請より略式な偈文になっており、日常勤行では省略して唱えます。（本山の法要では「散華楽」を入れて三奉請を唱えることがあります。）

漢字は「呉音」「漢音」の読み方があります。四奉請は「漢音」、三奉請は「呉音」で読むと定められています。

<p>● 奉請弥陀世尊 ● 入道場</p> <p>奉請釈迦如来 入道場</p> <p>奉請十方如来 入道場</p>	<p>● 入道場 ● 散華 ● 楽</p>
---	-----------------------

図3 三奉請

●：鈴の打つ位置です

(次号へ続く)

シリーズ 日常法務のご紹介③

お葬儀のながれ

本シリーズは今回を最終回にしたいと思います。今回はお葬儀についてです。

大切な方、家族がお亡くなりになった時、どんな方でも気が動転するものです。また、不幸事として捉える為、いざという時の準備というのなかなか気が進まないものでもあります。

仏式の葬儀とは僧侶が式を執行し、定められた作法や次第によって、故人とのお別れをする儀礼です。最近では、葬儀自体の形が洗練され（特に都心部）、昔のように遺族や世話人が様々な段取りを行うことも減りました。（代わりに葬儀社が行ってくれる様になりました。）しかし、いざという時の準備や順序などは知っておきたいものです。日常法務の紹介と若干離れますが、一般的な葬儀の次第を「図1」にまとめましたので、ご参考にして頂けたらと思います。

また、人数の大小に関わらず、お寺でも葬儀はできます。事前相談などはいつでも承っておりますので、不明な事があれば御相談下さい。

- ① 寺院・葬儀社へ連絡し、葬儀社に御遺体の搬送をお願いし、寺院とは枕経の時間などを相談する。
- ② 自宅、又は斎場（式場）へ遺体を安置する。葬儀社が枕飾りをする。
- ③ 僧侶によって枕経のお勤めを行う。
- ④ 葬儀式の場所や日程などを相談する。
- ⑤ お戒名を頂いていない場合は、生前のお人となりなど伺い、お戒名を定める準備を寺院がする。
- ⑥ 湯灌・納棺を行う。
- ⑦ 通夜式を行う。一般的には遺族や親族などが、夜を通して新亡をお護りする。
- ⑧ 告別式を行う。（終了後、出棺式を行う。）
- ⑨ 火葬場へ搬送し、荼毘に付す。
- ⑩ 火葬場から式場へ戻り、還骨法要を行う。一般的にはこの際に49日の中陰期間の繰り上げ供養も行う。

図1 一般的な葬儀のながれ（於 札幌圏）

皆様のご意見を広くかがい、
今後の寺報発行ならびに寺院運営の
参考とさせていただきますので、
ぜひご意見ご感想等をお聞かせください。
ご記入いただきましたら、切り取り線より切り離し、
ポストに投函ください。

Q1. 今回の寺報全体の感想はいかがでしたか。

- ・大変良かった
- ・良かった
- ・普通
- ・つまらなかった
- ・大変つまらなかった

Q2. 面白かった(興味深かった)記事があればお教え下さい。

Q3. つまらなかった(読みにくかった)記事があればお教え下さい。

Q4. こんな記事が読みたいなど寺報に関する意見・要望などをお書き下さい。(お寺に対する意見等でもかまいません。)

差し支えなければお名前をお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

郵便はがき

064-8790

料金受取人払郵便

山鼻支店
承 認

5169

差出有効期間
平成27年9月
13日まで
(切手不要)

新善光寺
行

札幌市中央区南六条西一丁目二

仏前結婚式とは？

去る2月22日に副住職の太田真海が本堂で結婚式をおこないました。教会や神社での結婚式はよく見ますが実はお寺でも結婚式が可能なのです。ですがとある統計によると仏式の結婚式というのは結婚式全体の1%にすぎませんし、行う方はほぼ寺院関係者が実際です。この機会に報告も兼ねて仏式の結婚式について紹介したいと思います。

結婚式といえば、教会式・神前式・人前式といった形で、専用の式場で執り行われるのが一般的です。それ故仏前結婚式は馴染みがないと思います。

その違いは結婚を神や友人知人に誓うのではなく、仏教の基本思想「縁」ということを重要視し、仏様・両家のご先祖様に報告するということにあります。内容はお釈迦様の前世物語になぞって執り行われます。そして新郎新婦が、先祖代々から尊い命を戴いてこそ結婚できるという厳粛な事実を感じながら式が進みます。世俗の習いに従って、「三三九度の儀」や「指輪交換(場合によって)」、「誓いの言葉」もありますが、「お数珠の授与」や「行華(あんげ)」と呼ばれる作法を執り行うところに特徴があります。

※行華…お釈迦様の前世物語に基づき、新郎新婦がお花を捧げること



行華



三三九度の儀



数珠授与

【新善光寺物語⑦】

お寺に幼稚園を創る——②

明照幼稚園から、白石幼稚園へ

昭和46年当時、北海道市立幼稚園協会の会長をつとめていた先代住職太田隆賢に、協会の役員佐々木須美子さんから「白石幼稚園を譲り受けて欲しい」という相談がありました。昭和33年に、佐々木さんが妹さんと一緒に創ったキリスト教系の幼稚園ですが、近隣の幼稚園の近代化が進み中、個人経営で続けていくことに行き詰まりを感じていたようです。佐々木さんは、教育者であり、信仰心を持つ者として、自分同様、教育者であり、信仰の篤い人に譲りたいと考えていたのです。隆賢は、その条件にぴったりだったのです。

隆賢は佐々木さんの想いを受け入れ、学校法人「白石幼稚園」を設立、「白石幼稚園」を「明照幼稚園」の姉妹園としたのです。経営者だけでなく、イエス様から「のの様」に変わったことに、子どもたちも父母もさぞ戸惑ったでしょうが、教育者としての隆賢は、昭和47年の春から本格的に白石幼稚園の経営に乗り出し、体制も強化して、運営にあたりました。

昭和51年には、学校法人「明照幼稚園」を、学校法人「新善光寺学園」に改称しました。しかし、その頃になると、札幌では中心部から人が減り、郊外へと移り住むドーナツ化現象が進み始めていました。明照幼稚園の将来にも暗雲が漂い始めていたと感じた理事長・隆賢と当時の園長・顯隆は、協議して明照幼稚園の歴史にピリオドを打つことにしました。平成3年、お寺と向かい合っていた園舎を解体、平成4年、「明照幼稚園」と「白石幼稚園」を統合したのです。

「白石幼稚園」はその後、より親しみやすい「しろいし幼稚園」に変わりましたが、仏さまの教えを通じて、「人」として生きていく上で最も大切な、生命尊重、慈悲心、感謝の心、正しい道徳性（モラル）の芽生えを育てる保育方針に、隆賢が幼児教育にかけた想いが今も生きています。



旗を振って園児を応援している太田隆賢

慈啓会から

啓明ともいき保育園新築工事始まる



地鎮式で導師を勤めた太田住職と参列者

札幌市内では現在、800名余りの認可保育所入所待機児童がいます（昨年10月現在）。

行政もこの状況を改善すべく、現在市内に複数の保育所開設の事業を推進しています。

そしてこの度、さっぽろ慈啓会においても新事業として保育園事業を展開する運びとなりました。

（仮称）啓明ともいき保育園新築工事と称し、本月より工事が開始され、本年12月の開園に向け、現在工事が進行中です。（詳細は下記参照）



去る4月11日には、建設予定地にて工事の安全と工程の順調な進行を祈願する地鎮式が、新善光寺住職太田眞琴師導師のもとに挙行されました。

本年12月の開園に向け、現在工事と並行に職員体制などの準備も進めています。詳しい情報は、随時さっぽろ慈啓会のホームページにてアップしています。

(www.sapporojikeikai.or.jp/)

施設名	（仮称）啓明ともいき保育園
建設地	札幌市中央区南14条西18丁目35番地5号 （敷地面積 1,078㎡）
構造規模	鉄筋コンクリート造・地上2階建て
施設概要	定員90名の乳幼児併設認可保育所 （延べ床面積 905㎡）
開設予定日	平成28年12月

進捗状況はHPで確認できます

しろいし幼稚園から

すくすく育て ほとけのこ

4月21日にしろいし幼稚園の園児達がお寺に参拝に訪れました。本堂では献灯・献花をしてお坊さんの話を真剣に聞いていました。



その後は骨仏・山門・宝塔とお寺の中を巡りました。しろいし幼稚園では仏さまの教えを通じて、人間形成において重要な生命尊重の保育を行い、多くのほとけさまの子どもを育てています。



しろいし幼稚園では仏さまの教えを通じて、人間形成において重要な生命尊重の保育を行い、多くのほとけさまの子どもを育てています。

新善光寺学園しろいし幼稚園

札幌市白石区平和通1丁目南6-16 TEL 011-861-4426

URL: <http://www.ans.co.jp/k/siroisi/> Email: siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp

《宮の沢別院から》

今回より別院に安置している「子育てどんりゅうさま」のお話をご紹介しますとおもいます。

どんりゅう上人伝①「出生～幼少期」

戦国の世も終わる頃、今から五百年以上も前の武州（現在の埼玉県）のことです。現在の春日部に住んでいた井上将監信貞というお侍がいました。このお侍の子供が、このお話の主人公のどんりゅうさまです。



信貞には三郎左エ門という男の子がいましたが、いつ命が奪われるかもしれない戦国の世でもあり、信貞の妻は、もう一人子供を授かりたいと願い、近くの竜神の森の社に毎日のようにお参りしていました。

そんなある夜、妻はその竜神の社から黒雲がたなびき、自分の社を包む夢をみました。やがて、めでたく二人目の男の子を授かることが出来たのでした。信貞と妻は、見た夢にちなんで、竜寿丸という名前をつけました。

すくすく育った竜寿丸は小さい頃から人目に付く大きく澄んだ目をしていました。そして、近所にあった圓福寺というお寺によく遊びに行き、圓福寺の住職に手習いごとや、日常の礼儀を学ぶことができました。

7、8歳になると、近くの村にある真言宗のお寺の寺子屋に行くようになりました（寺子屋とは今の小学校みたいなところ）。

随時見学可能です。是非お問い合わせください

TEL 011-668-5110

札幌市手稲区宮の沢5条1丁目19-35

— お檀家タウンページ ~ともいき訪問③—

元祖札幌味噌ラーメン 「味の三平」

今回は味噌ラーメン発祥の店「味の三平」様に伺い、3代目店主・大宮一人氏よりお話をいただきました。お読みのお檀家様の中にもファンの方が大勢おられるのではないのでしょうか。

新善光寺との縁は店主の姉が明照幼稚園に入園されたのがきっかけでお檀家様になられ以来約60年余のお付き合いであります。ちなみに現住職と幼稚園が同期にあたり、また店主も同幼稚園出身です。

元々は中央区南7条西4丁目に店があり、昭和20年代当時は大企業の支店開設が相次ぎ単身赴任の男性客が多く、ススキノ界隈で飲んだ後に「味噌汁をくれ」と言ったのと又、初代店主の故・大宮守人氏が味噌は体に良いと非常に好んでいられた（酒のアテに味噌をなめていたとのことです。）ことが、味噌ラーメン誕生のきっかけで完成までには5、6年を要したとのこと。

昭和43年に大丸藤井セントラル内に移転し、以来札幌味噌ラーメン発祥の店として初代店主の守人氏、長男の秀雄氏、次男の一人氏へとバトンが繋がり、札幌のラーメン界を牽引しておられます。



実際に味噌ラーメンを食べて見ると、今流行のこってり系ではなく、毎日でも食べることができるラーメンだと感じました。麺にも特徴があり、コシが強く独特な食感でした。非常に美味しくいただき、通いたくなる味でした。



札幌市中央区南一条西3 大丸藤井セントラルビル 4F

TEL：011-231-0377

営業時間：11：00～18：30

定休日：毎週月曜・第二火曜

（時期によって不定休、電話にてご確認下さい）

職員を紹介します



新善光寺宮の沢別院主管

こうけん
太田 光顕

1981（昭和56）年5月2日、現新善光寺住職太田眞琴の兄顕隆の長男として誕生。幼少期の私は、勉強よりも運動することが大好きで、いつもお寺の中を走り回っていたことを思い出します。（現在も趣味としてサッカーを定期的に行うなど、体を動かすことが得意です。）

私が僧侶になることを考えるようになったのは、家族に起きた二つの出来事がきっかけでした。一つは父顕隆の交通事故、もう一つは先代住職（祖父）の死去です。当時の私は、小学生だったこともあり、事の重大さをすべて理解できるわけもなく、ただ自分の身の回りに起きている様々な変化に必死に対応しようとしていたように思います。その中で「将来自分はお坊さんになる」とこの頃決意しました。

高校卒業までの18年間を新善光寺で生活し、大学は大正大学に進学。大学では浄土学を学び、卒業後は埼玉県川越市にある蓮馨寺で修行しておりました。約3年の修行ののち住職から宮の沢別院建立の話を受け、宮の沢別院主管として建立事業に携わり現在に至っております。



初めてお坊さんの衣を着けたとき

“俺が俺がの我を捨てて、おかげおかげの下で暮らす”

この言葉は、学生の頃からずっと自分に言い聞かせている言葉です。

私たちは阿弥陀様の「おかげ」により様々なご縁をいただいて今を生きています。人というものは、ふとした瞬間に自分勝手な考え方に偏ってしまいがちです。そんな時私はいつもこの言葉を思い浮かべます。父の事故も祖父の死もあの時起きなければどれほど良かったか。そう思う日もありました。しかしあの出来事があったからこそ今の自分があるのかなと思っています。私は、日々お念仏をお称えする中で、阿弥陀様そしてご先祖さまに「ありがとう」の感謝の気持ちと「おかげさま」の想いを持つことの大切さを痛感しております。



息子の顕翔と

今後とも新善光寺本院・宮の沢別院共にお檀家の皆様のお念仏の場であるように、日々精進してまいります。これからもどうぞよろしく願いいたします。

現在・新善光寺宮の沢別院主管 しろいし幼稚園評議員兼仏教保育講師

《団体旅行のご案内》

平成27年 長野・善光寺ご開帳参拝旅行 ～宿坊に泊まる2泊3日の旅～

とお いちど まい ぜんこうじ はなあふ しなのじ はる
“遠くとも 一度は詣れ善光寺 花溢れる 信濃路の春”

善光寺最大の盛儀として有名な七年に一度の「ご開帳」は、秘仏である御本尊の御身代わり「前立（まえだち）本尊」（鎌倉時代・重要文化財）を本堂にお迎えし、約2ヶ月にわたっておこなう壮麗な行事です。

新善光寺ではこのまたとない機会に京都知恩院参拝旅行以来5年ぶりに団体での旅行を計画しています。



《旅行日程 平成27年4月上旬》
詳細は決まり次第お知らせいたします。



前回の旅行写真（平成22年11月）

〈行事予定〉

5月27日（火） 11時	明照婦人会総会（於：札幌エクセルホテル東急）
7月13日（日） 16時	3・11メモリアルコンサート「絆」 （詳細は2ページ下部参照）
7月25日（金） 13時	慈母観音供養会
8月1日～15日	お盆経～お檀家様のご自宅へお盆参りに伺います。 （日程は7月下旬にハガキにてお知らせします）
8月16日（土）	盂蘭盆大施餓鬼会法要
9月23日（火）	秋彼岸大施餓鬼会法要
11月3日（月）	十夜法要

〈仏教体感〉

慈母観音供養会7月25日（金） 13時～

札幌100秘境にも選ばれた自然と天然石に浮き出た観音様に水をかけて供養します。なかなかじっくりと見る機会もないかと思えます。どなたでも参加できますので是非お参り下さい。



北縁 なんでも Q & A

本寺報への投稿も徐々に増えてきています。投稿された皆様、誠にありがとうございました。今回も前回に引き続き皆様のご質問にお答えしていきたいと思っております。

Q：25号の表紙写真の額の読み方、意味の解説をお願いします。また、寺所蔵の額についてもご紹介ください。（厚別区のお檀家様）

A：前回の新年号の表紙で使われた写真は「演大光」という額字です。お寺の一階の本堂へ通じる廊下のつきあたりに掛けてあります。これは浄土三部経の「無量寿経 卷上」の中の文言で、日常勤行の中でよく読む「四誓偈」の一節です。実際には「神力演大光（神力大光を演べ）」という一節ですが、「はかりしれない力で大なる光を放つ」というような意味です。機会があれば、他の額字なども紹介出来たらと思います。

Q：道徳心の希薄さが問題となり、政府も道徳教育に力を入れようとしているようです。学校教育その他を通じ、仏様の尊い教えを何とか広めていく方法が無いものでしょうか？（厚別区のお檀家様）

A：一般の道徳心＝仏教教義となるかは様々な考え方があると思います。しかし、少なくとも、仏教思想が日本人に必要な道徳心に反する思想ではないと思います。全国では子供に限らず、若い方対象の仏教セミナーなども多数開催され、仏教の基本精神や気持ちの持ち方。さらには対人関係に関する考え方などの講演も行っています。新善光寺では幼稚園運営をしておりますが、仏教の根幹思想でもある「明るく・正しく・仲良く」の方針を基に幼児教育にも力を入れているところです。しかし、実際はこのように講演会への参加や、宗門の学校（浄土宗だけではなく）で教育を受けること以外に中々仏教の教義や精神を学ぶのは難しい現状もあるようです。故に教育機関だけでなく、大人ひとりひとりが次世代の道徳力向上への責任を持ち、子供や若年層に対して道徳心を伝えていくことは有効な方法と感じます。そして、その大人の方たちに仏教の精神を伝えていく役目は寺院・僧侶であるべきだと考えます。

編集後記

今回も無事に発行することができました。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。さて、この北縁もリニューアルして早2年、始めは今の半分8ページで、ほぼ行事とお寺の紹介でした。それをだんだんとページを増やし今は16ページ、少しでもお寺を身近に感じられるようにと色々と企画を考えました。アンケートはがきの反応もうれしい限りで段々返信が増えています。是非、今号もご意見ご感想お聞かせ下さい。

また来年は4月に5年ぶりの団体での参拝旅行を計画しています。10月発行予定の次号はその特集になると思います。（海）

Hokuen 26
新善光寺寺報
北 縁

発行／2014年5月発行
発行責任者／新善光寺住職 太田眞琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp